

中国の動向をお届けします。



北京通信



vol.11

福井商工会議所主査(中国日本商会 出向)

藤原 卓也

スマートフォンが手放せない北京生活

便利なアプリケーション機能

北京で生活するようになり、スマートフォン（以下スマホ）が手放せなくなった。それは無料音楽・映像配信、食事の出前、配車、決済サービスに至るまで便利なアプリケーション（以下アプリ）機能がスマホに付いているためである。

中国ではチャットアプリとして「微信」（中国読みはウェイシン）が有名であり、その微信のサービスの一つに決済システムがある。このシステムは自分の銀行口座を通じてアプリ内に電子マネーを貯めておき、それを切り崩して各種支払いを行う。

このスマホ決済が飲食店やコンビニエンスストアで利用できるため、スマホを片手にレジで並んでいる光景をよく見かけるが、私自身も財布を持つ必要性を感じない。

今回、私がよく



「滴滴出行」の画面（空きタクシー数台が表示されている）

利用するアプリを一つ紹介する。

移動に役立つ配車アプリ

タクシーに乗る際に利用しているのが「滴滴出行」（中国読みはディディチュウシン）と呼ばれる配車アプリだ。

このアプリは、自分がいる場所付近に空きタクシーがスマホの画面上に表示され、目的地を登録すると乗車可能なドライバークラから携帯電話で返答があり、迎えに来てくれる。また、タクシー運転手の名前や車番がスマホの画面上に表示されるため間違えることはなく、道路で空きタクシーを探したり、長く順番を待たなくて済むため効率

危険性も伴うスマホ

北京に赴任する前は、まさかここまで中国人がスマホを活用しているとは思わなかった。その一方で、スマホに絡んだ情報セキュリティの危うさも問題視されている。聞くとところによると、広告のQRコードを読み込んだら銀行口座からお金が不正に引き落とされる、といった詐欺被害もあるようだ。

中国のスマートフォンビジネスは、日本の市場規模を大きく上回っていると感じるが、セキュリティも含め、機能等、まだまだ改善の余地があるといえる。

中国日本商会へのお問い合わせは・・・
福井商工会議所 会員サービス課

TEL 0776(33)8254